

随想 三題

花に魅せられて…

帆船 信子  
△フラワーアーティスト△



さる四月十三日、北野町の神戸クラブで、私の恩師、辻井康雄先生を京都からお招きして、ヨーロッパスタイルのフラワーアレンジメントデモンストレーションを披露して頂きました。とても好評で、皆様から夢の様な時間でした。今まで見た事のないデザインとめずらしい花ばかり、との賞賛の声があがりました。中間には、ティータイムをとり、フリートールキングをして皆様リラックスした雰囲気で、京都からのお客様は、さすが神戸、場所といい、雰囲気といい、とても満足しました、とおっしゃって頂き、古巣の神戸に帰り、こんな機会を得られた事を、とてもうれしく思いました。

神戸クラブは、メンバーズクラブです。で、大学時代の恩師、ミセスグラハムのお力をお借りした事も、感謝しております。高校生の頃から生花の稽古はしていたものの、親がかりで欲がなく、結婚して、男の子三人を育てる中、忙がしさの中でふっと、これから先、家事と子供に追い回され、気が

が付いたらおばあちゃんでは、自分も可哀想だし、主人や子供達との会話にもついていくためには、自分ももっと勉強しなくてはと思い、自分に一番合う物を通して世の中と付き合っていきたいと思い始めた頃、主人の仕事の関係で京都に住んでいて、御縁のあった先生が主催される欧風生花にめぐり合い、打ち込む様になりました。小さい頃から花屋さんになりたと思う程、花が好きな私は、花



熱心に説明する帆船さんと左は辻井康雄先生

をさわっている御機嫌です。昨年七月先生の教室の仲間達と、オランダでの研修旅行に出かけ、朝九時から、夕方五時まで、学生気分を味わって来ました。花市場の見学、陶工を尋ね、そこで造られた花器で花を生けたり、学校の庭にある花を思い思いに摘んで来て生けたり、それを皆で意見を言い合い、先生から手なおしをしてもらったり、私にとっては、もう一人の友人と共に、通訳もかねていたので、冷や汗ものだった事も度々。デザインに関する、特別な言いまわしや、細やかなニュアンスを、日本語に変えるむずかしさを味わい、これも又、勉強になりました。日本古来の生花の良さと、ヨーロッパの自由で華やかな点をミックスして、現代生活にマッチさせようと考案された辻井先生のスタイルを、色々な方に伝えたいと思い、教室を開く決心をしました。皆様と共に勉強を重ね、再びオランダをおとずれる日を夢みて……。

# 随想 三題 たかが映画されど映画

中西 恭  
〔新アサヒ劇場  
営業担当〕



昭和二十四年四月、厳しかった父が他界した。私が中学二年の時である。父は私に映画を観させなかったから、幼い妹のお守りを口実に一緒に見た「鐘の鳴る丘」、学校の団体観賞で「シベリヤ物語」、夏休みの校庭で観た宮城千賀子の「狸御殿」等、それまでに観た映画は十本にも満たない。

父の厳しさから解放され、ほどなく映画狂いが始まった。ボブ・ホープの「腰抜け二挺拳銃」を皮切りに特にアメリカ映画にのめり込んで行った。ジョン・ウェインの「駅馬車」で西部劇に、「白雪姫」でディズニーのアニメーションに、「雨に唄えば」でミュージカルに、「星下がりの情事」で愛情物にと、ジャンルを問わずそれぞれの持つ味に魅せられた。女優では「若草物語」のジューン・アリソンに憧れ、私の部屋は彼女の若かりし頃のスチール写真で彩られている。

好きで通った映画館であったが、あれから四十年近く経って、自ら映画興行に身を置く事とな

り、正直言って喜びよりは驚きの連続であった。あの頃の華やかな活気は何処へ消えたのであろう。テレビそしてビデオの普及、娯楽の多様化等、映画産業は斜陽と言われて久しく、未だに暗中模索と試行錯誤の繰返し、映画館は年々減る一方。最大の原因は、目先を追いつけたいわば映画産業の怠慢と思われ、なるべくしてなったと思う。

今やクラシックとなった往年の



—星下がりの情事—

ハリウッド黄金時代の名画を上映する時、私の青春の血を湧かした作品を今なお多くの老若男女の方々がご覧になる事を考えれば、このあたりに低迷から抜け出す手掛りがあると思う。これら名画に言える事は、夢やロマンや華やかさがあり、どぎつさがなく安心して観られ、そして作り方が丁寧であり、観終って心に何が残る。

当劇場がクラシックをメインに名画名作にこだわり続けるのは、映画は俳優が演じる虚構の世界であっても、観る人によっては感動や、時として生きる勇気を与えられる等、つまり「真実」に変える事が出来るものであり、殊に名画名作にそれが多いからである。

そしてもう一つ付け加えるなら、今の世の中を良くするため、政治家に期待するよりは、文化を向上させていく方がより確かであると思うからでもある。

名画名作は、文化向上のための確かな素材である。

# わたしの出逢った すてきな女性

森脇 清

〔電通勤務  
すてきな女性を描く画家〕



私が阪急六甲の坂をあえぎながら登ったとき、もうヨレヨレにくたびれはてていた。50才の峠をこした私にはこれまでの長い道中は苦しいものであった。

「六甲の薔薇邸のママはとてもすてきな女性ヨ」と夙川のラウンジ・ベルコンサートの津田姉妹の言葉をたよりにやっと辿りついた坂道であった。今はなき穴蔵のようなスナックの扉を開くと、そこにはロマンの香りの充滿した酒とバラの世界が開け、燃えるような真紅のバラの花、紫煙でベージュ色に染った漆喰の壁、あやしげに光るランプ、アール・ヌーヴォ調の空間が傷ついた私の心をやさしく包んでくれた。

画家を志さしながらも京都美大の教授、故須田国太郎画伯のすてめでデザイナーとして出発した私であつたが、広告界の熾烈な闘いの毎日に傷つき、生活や家庭にも疲れはて、朝日のサトウサンペイさんや河村立司さんとの出会いで描きはじめた表現に境界のある漫画の世界にも疑問を持ちながらや

つと住宅ローンや子育てから開放されたとき、電通の定年がもうそこまでやってきていた。そのとき、ジャズを唄いながら艶然と微笑み迎えてくれたのが薔薇邸のママ葉子さんであつた。やつと筆をとる力がわいて来たのでした。

そしてその他にも今までともに飲み、語り、歌い夢とロマンと希望を与えはげましてくれたすてきな女性達をここに御紹介します。甲子園口ノンシヤランの陽子さん、西宮北口ヴォーブの憲子さん、夙



個展会場にて筆者

川セブンスボットのヨウコさん、本山モンペリエのママさん、六甲GILの陽子さん、三宮あぐらのママさん、小西の信枝さん、アドルトのよし枝さん、神戸時代のママさん、おめんのママさん達すてきな女性を描き、私は生きる希望がでてきたのです。

宝塚の田中夫人、芦屋の音楽家鞍井夫人、芦屋ではギャラリートの絹枝さんにお世話になり個展をいたしました。住吉の電通にお勤めの小紫さん、中井さん、朝日放送でお世話になっている岡本の音楽家十合さん、御影の三瀬夫人、六甲の大道夫人、JR灘駅前でケーキ屋を開く千恵ちゃん、北野の宝石経営清水夫人達とも出逢いました。

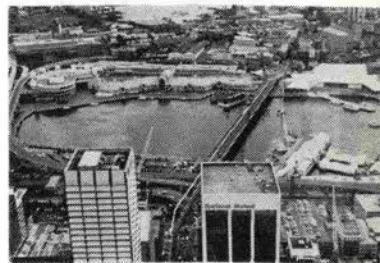
胸を張って格好よく遊泳している美しい白鳥達も水面下では必死に夢とロマンを求めて水をかいています。出会ったこの女神達に感謝して今後もすてきな出逢いを大切にイキイキ働き、すてきに生きる女性をここをこめて描きつけていきたいと思っています。

——女神よ永遠なれ——



# シドニーのウォーターフロントも花盛り

水谷頌介 △都市計画家・建築家▽



「シドニー、ダーリングハーバー地区」

ーテイメントセンターの経済活動施設、また、旧火力発電所の建造物を活用した魅力的なパワースペース（産業考古学博物館）で構成されている。地区全体は港の水面につながる広々とした公園や背後の中

ろがり、中心街の超高層・高密度街区に設置させて高層の建築物が一つもない。

そのため、それぞれの施設からは、水と緑のオープンスペースごとに、北の港と南の鉄道駅の間をタテに延びた中心街全体の断面をドラマティックに眺めわたすことができ。そのため、今まで裏となっていた鉄道駅側のオフィス立地評価も高まってきたという。このダーリング・ハーバーと中心街は、遊園地のなかで走っているような、車輛を支える柱も梁も地震国日本ではとうてい考えられないような細い断面の軽便モノレールが循環していて、ものめずらしい。

港町・ウォーターフロントの魅力的要素は、ここシドニーはサンフランシスコより上だ、と評価してしまっただけ。もう一つ眼新しかったのが人口三三五万人の都市として二階建の地下鉄網が発達していることだった。

港町の宿命だろうが、ニュージラランドのオークランドも、ウエリントンも、いずこも同じくウォーターフロントプロジェクトの話題にことかかなかった。

席だった。

オペラハウス

から遊覧船とフェリーのターミナルそして国際客船ターミナル、さらに橋のたもとに建設中のホテルの前を通ってロック地区をぐるりと廻遊できるウォーターフロント・プロムナードができあがっていて楽しめる。フェリーの港にすぐ接して、港が望める地下鉄の駅があり高架道路も走っているが、どこにでもあるようにそれが港と街を分断するのではなく、うまくとけこんでいる。

ウォーターフロントといえは、この中心地区の奥西側で、かつて港と鉄道をつなぐ貨物ヤードであったダーリング・ハーバー地区の再開発プロジェクトが、建国二百年記念にあ

わせて一九八四年五月企画一九八八年オープンという短期間で出現した。神戸でいえば、まさにハーバーランドの位置と背景の場所である。

計画敷地は五四ヘクタール。一九〇二年建造で港の地先を結んでいた木造橋をはさんで、水族館やホテル・カジノと国立海洋博物館やマーケットプレース（ショッピングセンターとレストラン）が配置され、三五〇〇席のコンベンションセンター、二万五千坪のエキジビションセンター、一万二千席を用意できるエンタ

に感じが似ているといったふうに、ここオーストラリアやニュージラランドは、アメリカ調とイギリスがたくみに入り交じった街だった。

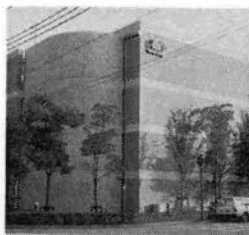
まず、評判のシンボルオペラハウスだが、遠目には予想外に小ぶりだ。港とボタニック公園が重なる先端に近づくにつれて、帆型の屋根が高々とひろがってくる。緻密にくみだてられたプレキャストコンクリートのスケルトンに対比して、砂利洗い出し仕上げの壁、床など内部はかなり質素にできている。椅子などとも一九七三年という完成年代を反映してか標準級だった。オーストラリア・パレーを觀賞したが、チケット五千円ほどで必ずしも安価ではなく、五日〜二四日とロングランなのに満

## 経済ポケット ジャーナル



### ★モロゾフの新生空間誕生

ポーアイ・ファッショントアウン内にモロゾフの新生拠点P&PSTUDIOが誕生。この社屋は同社のマーケティング本部が東灘



クリエイティブ・スピリッツ発信

区から独立したもので、プランニング&パブリシティの頭文字をとりP&PSTUDIOと名づけられた。オープンパティオやルーフガーデンなどすべてのフロアから自然の機微が臨めるダイナミックでモダンなつくりは安藤忠雄氏による設計。敷地面積985・5㎡地上4階の新しい空間からどんなプランが飛び出すか大いに期待される。

### ★「エジプト物産展」

ポーアイで開催

発展途上国からの輸入促進を目的に、'81年から実施している発展途上国産品展示事業の第40回目として、

「エジプト物産展」(MADE in EGYPT EXHIBITION)がポर्टアイランドの神戸貿易促進センターにおいて開催された。

エジプトと日本との貿易は、エジプトから原材料を輸入し、工業製品として輸出するという、典型的な構造となっている。

今回の展示会は、世界的に有名なエジプト綿100%の



エジプトの優れた商品を表示

衣料品、独特なデザインの手工芸品など、普段、目にするのが少ないエジプト製品を幅広く展示、紹介し、より一層の輸入促進を図ることを目的に開催された。

### ★音の出る立体駅貼ボスター初登場

サントリー株式会社、サントリーオールドのCMサウンドが夕方になると流れるという、全国で初めてのユニークなCM付き立体駅貼ボスターを制作、全国のJR線、地下鉄、主要私鉄の駅に掲示している。

今回のボスターは、会社



を終え、を帰宅するサラーマンに「晩酌ウイス

### ★KOBEOフィスレディ★

田村

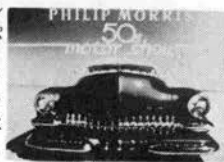
礼子さん(26)

〈近畿ベンディング株式会社勤務〉



笑顔がとっても素敵なお嬢さん。オフィスコーヒーマービスという業務を担当、市内各地を走り回っている毎日。「まだまだ勉強不足でたいへんなんです、みなさんが親切にしてくるので助かっています」と、にっこり。

休日はファッションウォッチングが多いそうで、お気に入りにはケンゾー。シロトピア博のファッションショーに行けなかったことがとても残念だと……。神戸市在住。双子座のB型。



50'S Dリーム「Sモーター」が新神戸オリエンタル

車の芸術作品ともいえるベキカスタムカーによるモーターショー「フィリッップモリス50'S Dリーム」が新神戸オリエンタル

キーとしてのオールド」を訴え、サントリーオールドの家庭用市場での大幅な需要増を狙ったもの。

★'50年代のカスタムカーがOPAに上陸



旧居留地に名建築を訪ねて

リブ・ラヴ・ウエスト

## 「ヴォーリズの仕事展」に思う

沢田 清

〔兵庫県立神戸工業高校・建築科長〕



五月三日から十六日まで大丸神戸店のリヴ・ラヴ・ウエスト二階で、「ヴォーリズの仕事展」が開かれた。会場にはヴォーリズの設計した建物の写真約三十点、図面七点、大丸心斎橋店の模型一点が展示され、併せてヴォーリズ愛用のイス四点も出品された。この展示場に使われたリヴ・ラヴ・ウエストはヴォーリズの設計した、旧ナショナル・シティ・バンク神戸支店(昭和四年完成)である。

ヴォーリズは一八八〇(明治十三)年にアメリカ合衆国カンザス州レブンワースに生れた。オランダ系の父は商人であったが、熱心な教会活動が続いていた。その教会活動を通して結ばれた母をもつヴォーリズが敬虔なクリスチャンになるのは当然であった。健康に恵まれなかった少年時代に音楽と絵画を習った。少年の頃に町の教会のオルガニストを務めたこともあった。そして、将来は建築家志望と宣教師として外国へ伝道に出ることを目標としていた。コロラド大学哲学科を卒業の後、コロラド・スプリングス市のYMCAに勤め海外への機会を待っていた。東京YMCAより滋賀県立商業学校からの求人が紹介され、明治三十八年二月二日近江八幡に二十四

才のウィリアム・メレル・ヴォーリズが到着した。保守的な地域である近江の過激な仏教徒との関係と健康を害したこともあり、明治四十年に商業学校を解雇された。その後も近江八幡に留まり、伝道の資金を得るために近江ミッションを設立し、建築設計監督事務所が開かれた。

リヴ・ラヴ・ウエストは昭和四年に完成した鉄骨鉄筋コンクリート造三階建の元銀行建築であった。戦災を受けて三階部分はコンクリートで修復したままであったが、昨年に復原されて昔の姿に戻った。

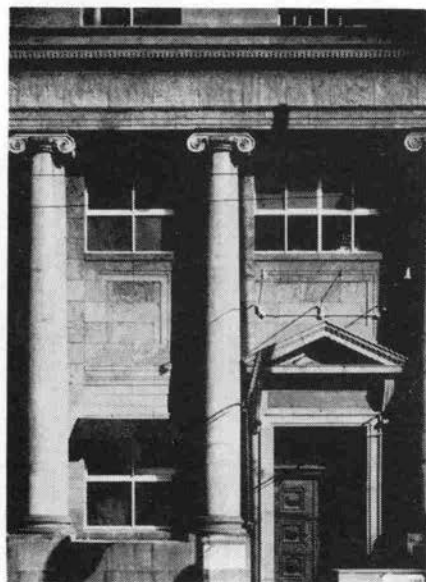
この建物は正面を南に向け中央に玄関があり、東北に通用口をもつ。この建物の様式はイタリア・ルネッサンス風と云えるモチーフを各所にもっている。イタリア・ルネッサンスの建物は三層で、一層目が荒い石積またはドリス式の柱で男性的な力強さを表現する。二層目は横目地を見せる石積または柱頭に渦巻をもったイオニア式の柱で中性的な表現をする。三層目は目地を見せない石積または柱頭にアカンサスの葉の付いたコリント式の柱で女性的な表現をする。

この建物は一層目を二層目のイオニア式柱の基壇と考

えた取扱いで荒い石積ではない。二層目は渦巻を柱頭飾りにしたイオニア式円柱が正面玄関の左右に各々二本並ぶ。東のトア・ロード側の側面はイオニア式柱頭飾りの付いた角柱を半分に割ったような片蓋柱となる。

けれども二層の四隅は横目地を見せた石張りとする。二層目と三層目との間に軒蛇腹を置き、その上に目地を見せない石張りにした三層目（屋階・アチック）を置く。正面の柱四本の間の柱間は円柱の分だけ壁が中へ入り込み、隅の目地のある部分が結果として前へ出る。この柱間の中央にある玄関は三段の石段の上にある長方形で、その上に三角形のペジメントを乗せる。外壁の東南隅は隅切りをしてアクセントにする。

内部の昔の銀行客だまり部分の床は、白と黒の大理石を市松模様張った床が今も残っている。壁は化粧しているが、部分的に柱頭飾りやアーチが残っている。現在



(左) 正面玄関から円柱を見上げる

(下) 側面からみたリブ・ラブ・ウェスト

の売場は銀行の営業室で気持のよい高い空間を創り出している。また銀行当時の金庫室と、その内部の保管庫も残っている。

この建物がリヴ・ラブ・ウェストとして再生したことは嬉しいかぎりである、いつまでも大切に使って、取り壊しなどをしないでほしいものである。これ以外にも国体道路南の生田町に神戸ユニオン教会（昭和三年）、離宮公園前に室谷邸（昭和六年）、カナディアン・アカデミー（昭和八年）などがあり、それらのデザインもゴシック、チューダー、ハーフチンパーなど多種多様である。また神戸の人にとって西宮の関西学院や神戸女学院は神戸市内と同様の位置に思えるが、この二つのキャンパスの計画、建築の設計もヴォーリズと云へば、もっと身近にヴォーリズが感じるのはないだろうか。

（参考文献）山形 政昭著「ヴォーリズの住宅」住まいの図書館出版局刊



□ エッセイ・8

# エンゲージリング

田中 千佳 〈作家〉

カット／西村 功



『結婚してくれなかったら死ぬ』  
と言ったくせに……

まあいい、話を本筋に戻そう。

私はテレビを見ながらも息子に言った。

『松田聖子みたいにチャラチャラした人は気をつけなさい』

榊原郁恵が出てくると、

『明るくて笑顔がいいわ。健康が第一よ。こんな人がいいわ』

息子は聞いているのか、いないのか、返事もしなかった。

その内、息子は就職が決まり、東京に行ってしまった。やがて、恐れていたことが起こった。言ってきたのだ。まだ、二十五歳だというのに、

『僕、結婚する』  
だって。

友達の紹介で知りあったとか、ごく普通の地味

のっけから申し訳ないけれど、私は何をやらせても、上手である。子供も育てやすい女の子を先ず生んだ。育児のお稽古を積んでから、次に男の子を生んだ。

やがて、この息子は父親に似て我儘で自分勝手、しかし、母親に似て優しくハンサムに育った。私にとっては、自慢の息子なのだ。

私は口癖のように言った。

『いろんな女の子と付き合ってから、結婚相手を決めるのよ。一時の感情で、愛していると、結婚しようとか口走っては駄目。取り返しがつかないからね』

すると夫が側から口を出すのだ。

『そうだ。俺みたいになる』

『何ですって』

私は気色ばむ。男って、どうしてもこんなに卑怯なのだろう。



なお嬢さんなので、ホツとした。

先方のご両親にもお目にかかり、婚約することになった。さあ、エンゲージリングを買わねばならない。

息子はチャッカリしていて、今までに私は何度もだまされている。大学の教科書はとても高いのだが、

『これとこれでX万円』

などと言って、いろいろ取り混ぜ、何度も請求された実績がある。

『新しいCD買ってきたから、一緒に聞こうよ』

などと優しいことを言って、音楽とお酒で私がうっとりしているのを見計らい、ハワイ旅行のラインを、夫の口座から落ちるようにさせてくれと頼んだりするのだ。バイトで稼いで返すからという約束だったけど、全然返してもらってない。

エンゲージリングについても、夫は、

『だまされるな。気をつけろ。あいつに買わせる』

と注意してくれた。

絶対に引っぱかるまい、私は固く決心していた。

電話が掛ってきた。軽いジャブの応酬。

『ダイヤを買うんだけど、どれ位のものがいいのかな』

『普通、月収の三倍と言うわよ。一生に一度のことだから、お財布の底をはたいて立派なものを買いなさい』

又、掛けてきた。

『明日、彼女と一緒に買いに行くんだけどもし足らなかつたら、少し足してね』

ソーラ、きた。でも、けなげに自分で買おうとしているのだからと思うとかわいそうになり、『少し位なら出して上げる』と言ってしまった。

次の晩、報告の電話が入った。

『買ったぞ。デザインのいいのがあってね。予算オーバーしたけど、買ってしまった。半分出してね』

『何ですって。少し足す位なら言っただけど、半分出すとは言っていないわ』

私は金切声を上げた。

『まあ、固いこと言わんと。かわいい息子の幸福の為じゃないか』

『で、あんたはいくら払ったの?』

『四千八百円』

『どうなってるの? ガラス玉じゃないんでしょ』  
『僕が、下二桁を払ったから、そちらは上二桁を払ってくればいいんだよ。彼女が喜んでね』

勝手に喜べ。私は頭にきた。始めは少し足してと言ひ、次に半分なんて言って。その上、数字を上下に半分だなんて、聞いたことがない。全く、親を馬鹿にして。

『それじゃ話が違わないの』

電話口で叫んでみたが、すでに切れていた。

二、三日して、上二桁X拾X万円の請求書が送られてきた。あーあ、又、息子にノックアウトされてしまった。



△筆者紹介△ 本名林陽子。朝鮮京城生まれ。戦後引き揚げて京都に住む。旧制同志社女専英文科卒。アメリカ系商社に就職。結婚、その後出産のため退社、以来専業主婦。「マイブルー・ヘブン」で昭和六十年代中央公論女流文学新人賞を受賞。現在、東灘区在住。

音

楽夜話〈40〉

大和楽との  
出会い

大和 三千世〈大和楽理事長〉

K O B E

へ雁金に、月も昔を思うらん

と、美しい高音の声が三味線に乗ってラジオから私の耳に飛びこんで来たのが「大和楽」との初めての出会いでした。昭和29年のこと、この曲をテープに録音しへ雁金に「美しい一声に魅せられて聴き直しているところへ大阪新町の宝石屋で、木島さんという出入りのおっちゃん

やんがやって来ました。

「あれっ。それ三島僊子の声や。ワイの友達や」

「へーおっちゃん知ったのん、紹介してエ」

「よっしゃ。よっしゃ。」

この曲は大和楽の「萩と月」。もう一曲は「きつね」という曲で、長唄の伝統邦楽をやっているものにとってはドンテテンと、浮かしバチのフワツとした軽快さと、リズムのよさ、それでいて品のよい雰囲気につきり惚れ込んでしまったのです。木島のおっちゃんは、さっそうく三島先生を紹介して下さり、嬉しい嬉しいと、この二曲を懸命に憶えて上京しました。

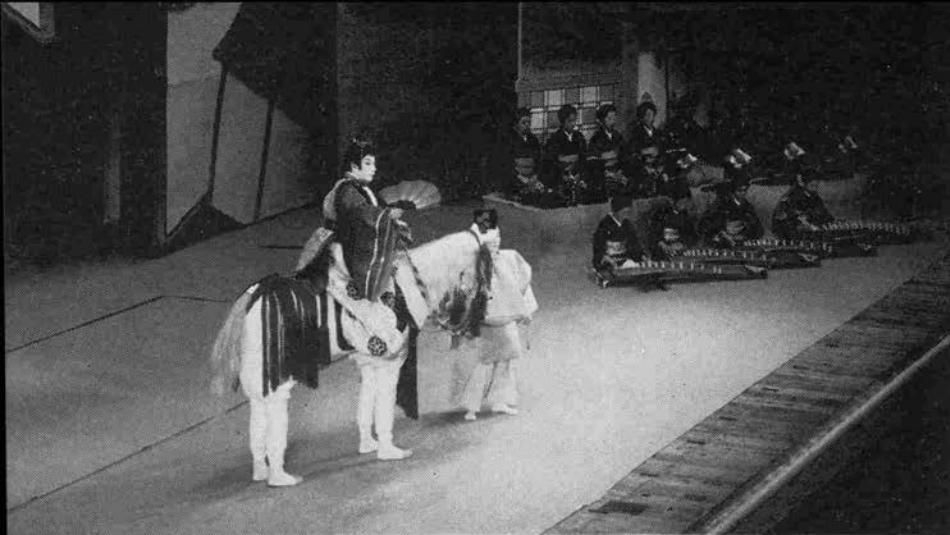
忘れもしません。銀座の和光と三愛、その隣りが曙、とその二、三軒先の安藤七宝店の二階に、大和楽団のお稽古場がありました。防音装置がしっかり全体にされている部屋で、三島先生からまず最初芸歴をきかれました。「昭和八年、数え年の13才で神戸の岡安喜左師のもとへ内弟子修業に入りました。16才で家元の六代目岡安喜三郎師のいらっしゃる東京へ、お稽古に通って19才の春、岡安喜歌子の名をいただきました。天才の家元は、昭和25年に38才の若さで亡くなられ、以来、14代杵屋六左衛門師、山田抄太郎師、松崎倭佳、錦師、岡安晃三郎師のもとへ、伺っております。」



大和三千世さん



昭和32年。東京放送で大和楽のおせんを生放送。左から宮川寿朗先生と筆者、一人おいて当時の初代家元大和美代婆（三島僊子）さんら



平成元年2月公演。東京歌舞伎座の大和楽「源氏物語絵巻」に市川団十郎の光源氏の舞台地方をつとめるタテ明筆者。ワキ唄・大和礼子、タテ三味線家元大和久満さん。

と申しましたら、三島先生は、きれいなお声で、「じゃあ声を聞かして下さいな」

と、ピアノのキイをボンと弾かれて、アエイオウーと発声されるので、私も恐る恐る発声練習をしたのです。

そして「きつね」を唄っているところへ大和楽の流祖・大倉喜七郎（大倉聴松）会長が入っていらつしやって聴いて下さり即入門という運びになったのです。まだ大倉会長がホテルオークラを建てられる前の話です。

今は、大倉会長も作曲の岸上きみ先生、宮川寿朗先生や

昨年までお元気だった三島儼子先生こと大和美代葵初代御家元も他界され35年の月日の早さを思うばかりです。

平成元年のこの二月、私は、東京歌舞伎座で菊五郎劇団40周年公演に田中青磁先生作、二代目家元大和久満作曲の大和楽「源氏物語絵巻」が上演され、光源氏は市川団十郎、藤壺・尾上梅幸、六条御息所・中村芝翫、柏木・尾上菊五郎丈などという、華やかな顔ぶれの舞台を一カ月タテ唄として、二代目家元大和久満師の三味線で、娘の大和礼子らと共につとめさせていただきました。

欲張りな私は、日本中の有名な劇場は出演したいと高望みをもっておりましたが、大阪の新歌舞伎座も京都の南座も、名古屋の御園座なども出演でき、東京歌舞伎座での役者衆の舞台は、女性の唄い手として初めての舞台出演でした。私にとっても、プロ冥利につきるといふもので「大和楽」をやっていた幸せを感じています。

今や、日本舞踊の会にとって、大和楽の伴奏はなくてはならぬ存在になりました。大和楽団としては、東京、神戸、九州だけにしかないという貴重な存在です。大和楽の道に入って35年を一つのケジメとして開くこの会は、長唄を人に教えて50年を数えることにもなります。

この八月二日、新神戸オリエンタル劇場で、大和楽師籍35周年記念の「大和三千世の会」を、二代目家元大和久満師と、ゲストに朝丘雪路さん（深水流家元）をお迎えして、大和楽の演奏会を開くことになりました。

昭和8年に大倉喜七郎会長が、創流された日本の新しい邦楽が、神戸にも根つき花ひらき、奇しくもホテルオークラ神戸が、私の住む中山手7丁目からほど近いメリケンパークにオープンする平成元年に「大和三千世の会」を開かせていただけるのも、バロンや三島先生との出会いの賜ものと感謝するばかりです。

ひとすじに 歩みきたりし大和路の

末広かれと希ふ花傘

三千世





□神戸を愛する人々へのメッセージ  
北野からプラタナス街道を通って

# 近くて遠い温泉

平野、祇園、残された風景

写真と絵と文

稲田 勝巳

F・D・B代表者

絵を描く人にとって、一番の印象に残る風景は自分だけの宝物のようである。

散歩をする人にとって、その街やいつもの歩く道は四季の風景が心に安らぎを与えてくれる。

そして、街路樹は時々、自然の時計を刻んでいることを教えてくれる。

新緑の諏訪山を歩けば神戸にはこんな近くに、すばらしい公園があることを知る。

神戸外国人倶楽部から諏訪山公園、そして西へ通ずるプラタナス街道、大きく育った街路樹、日常の車の洪水をかううじて、受け止めるかのように、排気ガスを包み込んでくれている。

最近では歩道が、考えられて、実によくカラー舗装として整備されてきている。

しかし、観光ルートの中の優先順位であるが。

(私も男性であるので)時々足をひっかけ、つまづくが、女性がヒールを折る事をよくみかける。凸凹のちょっとした配慮や側溝、グレーチングのサイズによってはスポツとヒールが入ってしまうものである。

こんな状況を見ると、ようこそ神戸への歓迎が、こ

めんなさいといいたくなる。

(靴破損弁償保険でもあればいい)

今、昔ながらの町並みが残っている楠谷、平野、雪御所、そして湊山温泉。

昔ながらの町並みと共に、まだかくされた都市が発見出来る。

観光化された街は、やがて、人が押しよせ、舞台が作られ、様々な顔に変わってゆく。

しかし、朝早くそこを少し歩いてみるとやはり、いつもの生活があり、そして神戸を愛する人々が住んでいる。

再度山の早朝登山、そして、茶店、平野にある温泉。(ここにも、まだ、神戸のよさが残っている。)

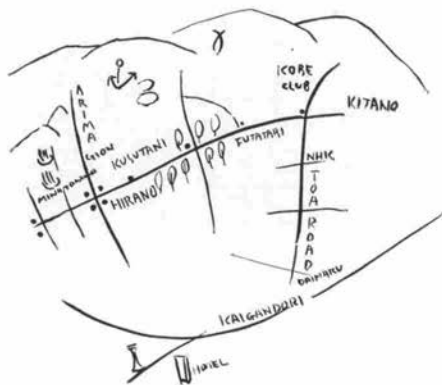
しかし、残念な事に、魔の7時から8時は車の渋滞がはじまり、そして排気ガス。

黙って、黙々と運転がはじまり、会社へ着くまでに、人々のエネルギーが消えていく。

プラタナス並木の森をくぐって行くのは渋滞の交差点。そして、北野、諏訪山、楠谷とつづき、今だにテコ入れを必要とする、この平野が見のがされているのは実に残念な事と思う。



# I LOVE KORE



■いなかつみ

(F・D・B代表者・プロデューサー) 1950年生まれ。大阪市立第二芸芸科卒業。EXPO・'70、京都駅前再開発、その他、商業施設プランを手がけ、79年にF・D・Bを設立

しかし、行政だけではなく、この地域の地盤沈下は商業生活を営む人々の意識改革が必要なのかも知れない。決して観光化がよいというのではないが、ムダなお金を使わずとも、安価でいい湯が、神戸に隠されている事も、観光PR出来るかも知れない。神戸に住むと誰もがやはり、自分の街を愛している。

(しかし、観光に訪れる人々にとっては、その一面のロマンチックだけでどれだけ生活がしにくくなってきているか、知られていないが……)

楠谷、祇園、雪の御所、そして、湊山温泉。この谷に流れる水や、そして、山の風情は車わずから5分の所に大きな魅力を残している。

これからもし、この地域が変化していくとも、人々は

受け入れる側も訪れる側も、最低限は目に見えないルールを持ち、地域社会に貢献出来るのかも知れない。自然なロケーションのある神戸がまだ残っているこの街の静けさは細い路地裏にも、整った石畳や、ほこれる町並みにしたいものである。

グッドロケーションは北野だけに有るのではない、海岸通りだけでもない。

祇園、ここにも、大きな神戸の財産がある。ここの水は昔から、おいしいという評判だった。

ここで沸かす珈琲や紅茶もおいしいと言われていた。ここから出る温泉は今も親しまれている。

もう一度、見直すことの出来る、この町並みに、はやく新しい風が吹く事を願って。



大関弘政さん

それから北大に進んで、本当は動物をやるつもりだったんですが、海藻のいい先生がいたので、その先生についてしまったんです。でも海藻というのは大きくならないんですよ。自然にワカメやコンブみたいな大きなものがあるのに、それを生やささないで研究していいの？なんて思って、それで水族館でやることにしたんです。その後、東京水産大学の助手として江の島の水族館でやることになったんですが、そしたら水族館に入らないかと誘われて。でも

須磨海浜水族園の園長と宝塚歌劇団の演出家という異色のとり合せですが、二人はいずれも魚好き人間だというところで一致。そこで、新しく「イルカライブ館」がオープンしたばかりの須磨海浜水族園を見学したあとの初めての出会いとトークです。

大関 吉田園長と魚との付き合いは、どんなところからなんですか。  
吉田 子供の頃から動物が好きだったんです。東京のお寺に生まれまして、そこで飼っていた熱帯魚を、小学四年くらいの時に叔父に貰ったんですが、その頃熱帯魚なんて珍しくて、水槽をズラーツと並べていたその中にラスボラヘテロモルフアなんていう魚がいて、そんな名前を覚えていうと、大人が感心するんですよ。



〈神戸発対談〉

## 吉田啓正 VS 大関弘政

〈須磨海浜水族園園長〉

〈宝塚歌劇団演出家〉

# 魚心あれば水心





だろうとか、すぐ思ってしまうんですよ(笑)。

大関 いや、僕はもうここへ来たら、もう食べることは考えてませんね(笑)。

# ★須磨海浜水族園は魚のショーを観ているみたい

吉田 アメリカの水族館には説明が長々とされていて、皆な一生懸命読んでいるんですが、日本では逆にうるさがられてしまう。日本人はうわーっていつて楽しんでるんですよ。魚に親しんでるんですね。どんな魚にだって全部名前を付けるでしょう。アメリカだとエンゼルフィッシュだけでもいっぱいいるんですから。適当なんですよ。妙なところで几帳面なんですね。

大関 今日は魚のショーを観ているようでしたが、科学的にやったら、このようにはならないでしょうね。

吉田 初めは生物学的に分類するのを考えたんですが、どうしたらお客さんに喜んで貰えるか、楽しんで貰えるか、つき詰めて行くと、あんなったんです。これだけたくさんの人が来て喜んでくれなきゃ、面白くないですね。

大関 今日ざーっと拝見して思ったんですが、出来上がった水族園自体は、ショーですね。素晴らしい。

吉田 有難うございます。ところで、演出でも、皆なが喜ぶようにと考えるだけじゃ駄目なんですか。

大関 小説であれ演劇であれ映画であれ、時間芸術というのは、例えば劇だと最初の五分で観客を引きつけて、最後の十分で感動させようとしませうから、入口と出口が非常に大事なんですね。この水族園の入口の大きな空間にしても同じことがいえますよね。

吉田 あれは絶対やりたかったんですよ。今でこそ、あ



感動的な本館正面の大水槽の前で

れもいいな、といって貰えますが、計画の段階で何故そんなことをしなきゃならないんだといわれると、グラッとするわけですよ。大金かけてるんですから。波を起すのも駄目なら仕様がな、諦めて止めてしまえばいい、と思っただけなんです。でもやっぱり、あの空間をどこかで皆な感じてくれているんですよ。嬉しいですね。最初が肝心ですよ。

大関 演出法というのは、絶対ありますよね。

吉田 イルカライブ館でも心配したんですよ。入口から水槽まで二十五m欲しくて、入口から狭いところを通して行って突然広いところに出るといふ風に……。でも実際にはどうなるか分らない、こりや舞台関係の人に訊かなきゃ仕様がないなと思っ……結局は模型を造ってやってみただけがね。

大関 シナリオをつくる時に、十二の場があったとしますね、で、いろいろな場面展開を十二枚の千代紙を並び変えたりしながら考えるんです。やっぱり、空間の広がりやどこで見るかというのと同じだと思いますよ。

吉田 そりゃ、大関先生はプロでいらつしやるから……。

大関 プロでもやってみなきゃ分らないもんですよ。

吉田 本館は天井まで19mあって、水槽の幅が25m、高さが3・5mなんです。あの水槽から天井までの間をどう処理するか迷っているいろいろな、映像を映せというんです。空間があきすぎるから。だけど、やっぱり何もしない方がいいみたいなんです。

大関 空ですよ。何もないから、海が生きてるんです。

吉田 でも何もないのは無駄な空間になると思って、あのキラキラしたのを吊ったんです。すると、広いもんだから子供が走り回って、上を見るんです。それを見て、ああ無駄じゃなかったと思いましたね。上の広がりを感じ



じるんでしょね。

大関 水族園というネーミングも一理ありますね。今までの水族館は動く標本というイメージでしたが、今日拝見して非常に楽しくて……見せ物になってるんですね。何歩も飛躍したという感じがしますね。

吉田 昔の水族館はどんな珍しい魚がいても、途中でくたびれてしまつて最後まで観てくれないんです。そこで八つの建物に分けて、出入り自由にしたんです。入口でパンフレットを配るんですが、皆な最後まで持ってるんです。どこにいるか分らなくなりますから（笑）。それでも一応は順路をつくつてあるんですよ。本来は自由選択の要素を盛り込んでるんですけどね。若い人は絶対、文句をいいませんね。

大関 それにしても年間二百三十万人は凄いですね。須磨という立地条件もいいんですよね。

吉田 そうなんです。よく知らない人は須磨という市があると思つていらっしゃるんです（笑）。

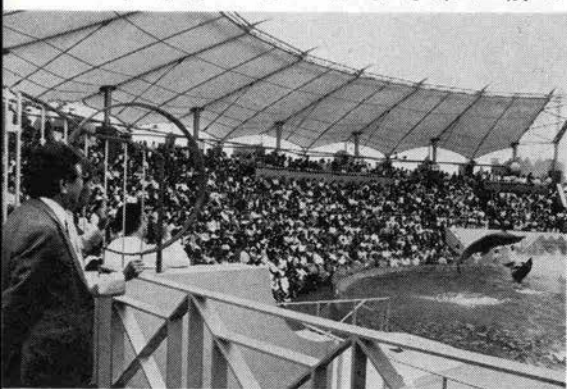
大関 源氏物語や万葉集にも出てるんですから。

#### ★舶来文化からオリジナル文化を

吉田 話は変わりますが、モントレー湾というところは生物相の厚いところで、さる大会社の娘さんが水族館をつくりたいといつて、父親が乗り気になって本当に出来てしまったんです。そこでは沙蚕<sup>シムロ</sup>までが水槽に収められてるんです。水族館自体がモントレー湾なんですね。

大関 海かくあるべしということですかね。

吉田 ただ日本でやるとお客さんは十人くらい来て、あと誰も来ないようなことになったりす



イルカのショーを観ながら歓談

るんですよ（爆笑）。ワイキキの水族館じゃ、最後にゴミだけ入った水槽があるんですよ（笑）。

大関 日本だと、どこからかお叱りを受けますけどね。

吉田 ウチでも思い切つてやったつもりなんですよ。

大関 観る側の観方が根本的に違うんでしょね。

吉田 例えば「CATS」なんかだと、日本人の反応は非常にいいんですが、向うでウケてるのとは、何か違うんですか。

大関 僕は演出の仕事をしていて、実は恥ずかしいんですよ。独創なんてどこにもないのかも知れない、僕らは賈物<sup>モノ</sup>をつくってるんじゃないか、という気がして仕様がななんです。「CATS」がウケてるのは、舶来だからなんです（笑）。これから百年たつても千年たつても、日本という国は変らないかも知れませんね。

吉田 でも宝塚といえば、外国でもかなり評価されてるんじゃないですか。

大関 西欧人は、一步でも西欧文明に近いことをやったら馬鹿にしますよ。異った文化については絶賛します。

これは仕方ないですね。

吉田 例えば動物園は、向うでは動物学園、即ち動物学の園なんだということです。日本人にはまだ<sup>ハナ</sup>学<sup>ガク</sup>が馴染んでないという気がしますね。それが日本人というものだから、これは永久に続くんじゃないでしょうか。

大関 「CATS」なんかは舶来なわけで……そこへ客はどつと行くんです。でも、仮りに言葉が十分の一しか分らなくても、向うで観たものには涙が出ますよ。日本で演つても泣かせませんね。感動がなくなつてれば、輸入とはいえないんじゃないでしょうか。僕らの作業にしても、しかりですね。

吉田 だけど、それは本当に出来るんでしょか。

大関 僕らも勉強しとかなきゃいけません



ね。あと、いかにして国産のものをつくるか、日本人を感動させるかでしょうね。

吉田 日本人は、自分たちが育んで来たオリジナルを、余り大事にしないような気がするんですが。

大関 鎖国でもないかと駄目ですよ(笑)。

吉田 何となく懂れて、無節操なところが日本人なのかも知れませんか。だけど欧米への懂れに本当に浸っているかというところでなくて、最近流行のイベントも提供する方が、まああの線で作ってるんですよ。

大関 だから、さっきの水槽の上に映像を映すというのは、イベントの発想なんですよ。

吉田 提供する側が、金もないからこの辺で、という程度の面白さを提供して、お客さんも、この程度だろうと思いつながら、面白がってる振りをしてるんですよ(笑)。大関 この水族園の凄いいところは、園長さんが、僕の思い通りやらせてくれるならやったるけど、やらせなかったら止める、といってしまうところですね。これはこれからのショー・ビジネス全てに使えるんじゃないでしょうか。

吉田 ある意味では独断なんですけど、全体として見た時に、何か個性が出てればいいんじゃないかと思えます。

大関 そうですね。

吉田 博覧会には、それがないんですね。こんなものが文化だと思ったら、日本人は駄目になってしまいます。

大関 一度、文化のない博覧会をしてみたら。

吉田 それで誰も行かないじゃないんです、行くんですよ(笑)。それで、あんなものだとな得してしまうんです(笑)。学生が盛り上ったりする様な力が、今の日本に欠けていることが淋しいですね。

大関 えらい(爆笑)。

吉田 僕は、個人的には何もかも欧米に習おう、とは思わないんです。

大関 観る人にフィットさせないかね。

吉田 だけど、何か主張しなきゃいけませんね。ところ

で、たくさんの人を対象にするのか、特定の人を対象にするのか、どうなんですか。

大関 宝塚という劇団の性質上、どうしてもお客さんの七七八割は女性であり、それがターゲットなんです。すると、ストーリー、テーマといったものが自ずと決ってくるんです。その中で僕らのやりたいのは、いつも梓の中だけじゃなくて、三歩前進七歩キープみたいなことなんです。

吉田 でも現状は、厳しい条件の中から表舞台に出て来るとするのは、宝塚くらいしか残ってないんじゃないですか。

大関 でないと、卒業生があれだけ活躍出来ませんよね。それに、宝塚は東京にはないから、宝塚方式とでもいうようなものが、付近の女性に与える影響が大きいんですね。宝塚を観て育って、どこかでミュージカルを観るきっかけになっているように、水族館でも子供の時に行ったのが、大人になって、また子供連れで行けるっていうのは、いいじゃないですか。

吉田 本当は、子供抜きで来て欲しいんですよ。大人だけでも来れるところなんです。だから初めはアベックが来るのを喜んでたんですが、アベックって、本当に観てるのかな、と疑ったりして。そしたら、ある人に、最初に水族館に行って、魚を観て会話しながら付き合うきっかけにしよう、というアベックが多いんだと聞いて、嬉しかったですね。慰めかも知れませんが(笑)。

でも昔は、水族館でお見合いする人が多かったんですよ。不思議だったんですが、魚心あれば水心(笑)というわけで、上手く行かなかったら水に流す(笑)。どっちにしても非常に便利だったそうなんです。それで、おまけに、隣に結婚式場があったんです(爆笑)。

(於/須磨海浜水族園にて)